

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	特定非営利活動法人小樽青少年科学技術の芽を育てる会			
事 業 名	IchigoJam プログラミング教室			
実 施 期 間	10月21日、11月25日、12月24日、2月17日			
事業の目的及び期待する効果	<p>当団体では、まちづくりとは「人材育成」であり、「人材育成」こそが小樽のまちづくり発展に寄与するものと考えています。小樽市は観光都市として全国に知られていますが、近年、観光業界を始めとする様々な分野で ICT や IoT といった「情報をどのように活用するか」という考え方が注目されています。これはコンピュータプログラミングの技術を活用するもので、2020 年度から小学校においてもプログラミングの授業が必修化されることから、これらの分野が重要視されていることがわかります。</p> <p>高校や大学などで、ICT や IoT について専門的に学ぼうとする場合、プログラミングは、理系の学問分野になります。そのため、ICT や IoT を活用して小樽市のまちづくりを推進するためには、理系分野の基礎を身につけた人材の育成が必要だと私たちは考えています。</p> <p>そこで本事業では、児童・生徒に、理系分野を学ぶための基礎となる「論理的思考」と「知的探究心」を育むことを目的として、年複数回のプログラミング教室を実施します。本事業では、児童・生徒自身に手を動かし考えてもらい、実際に動作するプログラムを作り出してもらいます。自分の力でプログラミングが出来たという「成功体験」を通して、筋道立てて物事を考える「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」の醸成が期待できます。同時に、若い時期に小樽で楽しかった経験を増やすことで、小樽への帰属意識が醸成されます。本事業により、次世代の小樽のまちづくりを担う人材の育成につながると考えています。</p>			
実 施 額	事業費	335,913 円	助成額	300,000 円
事 業 内 容	<p>プログラミング体験教室 Ichigojam でプログラミングを体験しよう！</p> <p>本事業では、小・中学生向けのプログラミング教室(会場:小樽市総合博物館本館)を、平成30年10月から平成31年2月の期間において、計4日間(1回の教室は、同内容で午前と午後の2回行うため、延べ8回)開催しました。</p> <p>小型PC、IchigoJam上において実行するBASIC言語を用いて、簡単なプログラムの記述方法から開始して、1回目ゲーム作り、2回目扇風機の制御、3回目LEDを用いたピンポンゲーム作り、4回目ルーレットの制御プログラムの作成を行っていただきました。</p> <p>本事業は、プログラミングに必要な機材を全て当団体で準備することで、参加者の持参物等は必要なく、また無料で実施するため、気軽にプログラミング体験をできるようにと考えて実施しました。</p>			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
10月21日	第1回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう!	30人	26人
11月25日	第2回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう!	30人	23人
12月24日	第3回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう!	30人	24人
2月17日	第4回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう!	30人	23人

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

全ての回において、全参加者が、IchigoJam を用いて制御プログラムを完成させ、その回のミッション(ゲームを作る、扇風機を制御する、LED を連動させてピンポンゲームを作成する)を達成することができた。本事業の目的である自分の力でプログラミングが出来たという「成功体験」を通して、「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」の醸成がおおむね達成できたと考えている。また、数人のグループを作り、お互いの意見を伝えて、プログラムやゲーム内のキャラクター動作を改良するなどの機会を設けた。このことにより、講師から教わるだけでなく、子ども達の間において、自分達で考えるという場面を設けることにより、自分で考えて他人に伝える・他人の意見を聞いて、さらに意見を出すという「アクティブ・ラーニング」の経験も積めたのではないかと考えている。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

各回の教室終了後に、参加した子ども達、参観した保護者にそれぞれアンケートを実施したところ、子ども達・保護者ともに毎回 9 割以上が、「また参加したい」・「また参加させたい」と回答した。実際に、4 回目の参加者における参加回数が 2 回以上のリピーターは 87%(23 人中 20 人)となっている。これは、参加者が各回の体験教室に満足し、再び参加したという結果として表れていると考えている。

3. 今後の事業について

今後の事業については、今年度までの募集対象は小学 5 年生以上としたが、2020 年度から全ての小学生に対してプログラミングの内容が必修化されることを考慮すると、より低学年向けの教室も行いたいと考えている。例えば低学年向けに「親子プログラミング教室」として、親子でプログラミングを学べるような内容とし、参加する子ども達の学年・習熟レベルに合わせて、プログラミングをより気軽に体験してもらえそうな内容にし、これまで以上にプログラミング体験への裾野を広げていきたいと考えている。

また、参観した保護者から自分もやってみたいとの声があったので、成人向けの体験教室についても検討したい。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等